

福島県双葉町出身の茨城大人文学部4年、小野田明さん(23)が、東京電力福島第1原発事故で全町避難を余儀なくされた同町のこの1年間を記録したドキュメンタリー映画「ある町」を製作した。町域の96%が帰還困難区域に指定された同町。

全町避難の1年間記録

後も撮影を続け、「町月4日に茨城大で開か
が新たな一步を踏み出されたシンポジウムで初
す過程を追いたい」とめて上映された。
意気込んだ。

「帰る気はないが、このまま町がなくなるのは寂しい」と複雑な心境を明かした。

「故郷とは」映画で問う

福島・双葉出身小野田さん(茨城大4年)

「故郷とは何か」を考
えるため始めた撮影で
は、インタビュース通
じて散り散りになった
町民の姿を目の当たり
にし、故郷への帰還を
めぐるさまざまな思い
が浮かび上がった。今



上映作品に答え、4日、茨城大で質問者小野田明さん、水戸市文京のシンポジウムに参加する

「故郷とは何か」との思い
郷とは何か」との思い
が次第に大きくなり、
留学を途中で切り上げ
編まれて状況が変わつ
た。

来月には同郷の若者たちの意見交換の場を立ち上げるつもりだ。「町の行く末がどうなるか分からないが、若者なりの意見を伝えたい」という。

大学卒業後は大学院進学に進路変更し、最低2年間は映画の撮影を続ける。「撮影しながら自分なりの考えをまとめたい」と心に誓っている。